

FUNDELY

2022年3月期 決算説明資料

株式会社ファンデリー

2022年4月28日（木）

東証グロース 3137

1. 決算概要
2. 2023年3月期業績予想
3. MFD事業
4. CID事業
5. マーケティング事業
6. 全社トピックス

売上高が増加し利益も大きく改善するが、減損損失の計上のため
当期純利益は大きく減少。通期予想比において売上高・全ての段階損益が未達成

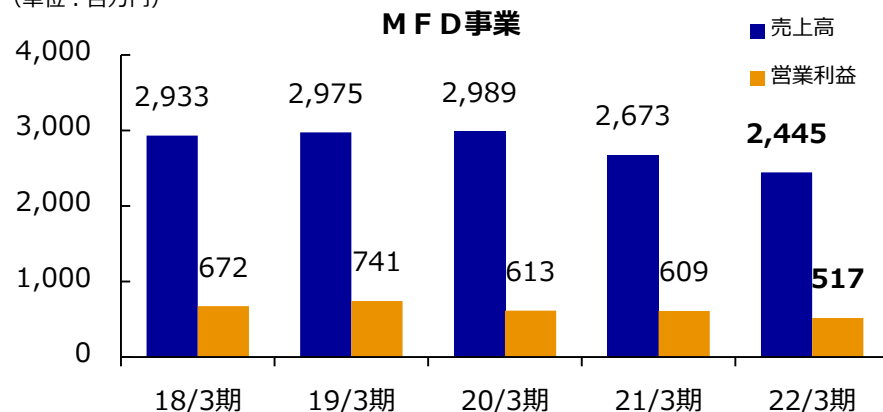
	21/3期 (百万円)	22/3期 (百万円)	前期比 (%)	通期予想 (百万円)	達成率 (%)
売上高	3,062	3,123	101.9	3,874	80.6
売上原価	2,100	1,942	92.4		
売上総利益	962	1,181	122.8		
販管費	1,515	1,358	89.6		
営業利益又は 営業損失 (△)	△553	△177	—	100	—
経常利益又は 経常損失 (△)	△559	△158	—	92	—
当期純利益又は 当期純損失 (△)	△374	△1,948	—	68	—
EBITDA	△1	381	—	599	—

MFD事業の売上高・営業利益は前年比でマイナス
他事業の売上高・営業利益は前年比でプラス

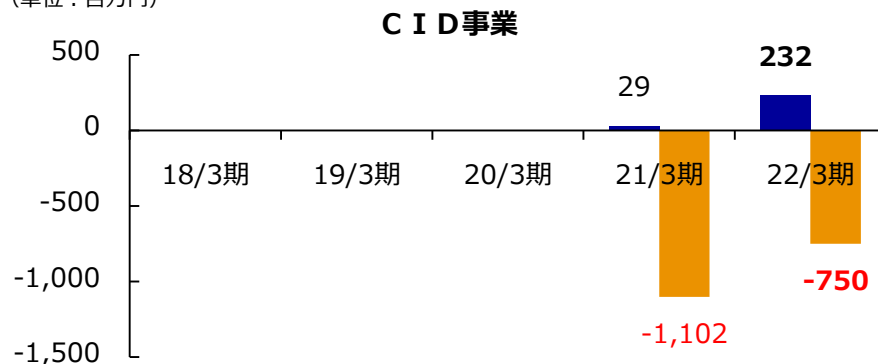
		21/3期 (百万円)	22/3期 (百万円)	前期比 (%)	通期予想 (百万円)	達成率 (%)
MFD 事業	売上高	2,673	2,445	91.5	3,063	79.8
	営業利益	609	517	84.9	648	79.8
CID 事業	売上高	29	232	785.8	261	89.2
	営業利益	△1,102	△750	—	△600	—
マーケ ティング 事業	売上高	360	445	123.7	550	80.9
	営業利益	257	331	128.8	412	80.3
全社費用		△317	△275	104.6		

MFD事業は2年連続で売上高と営業利益が悪化
CID事業は着実に前進、マーケティング事業は売上・利益ともに過去最高

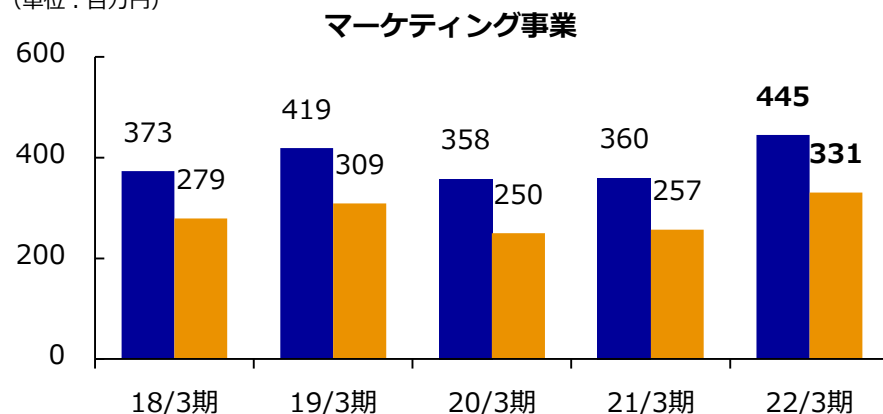
(単位：百万円)



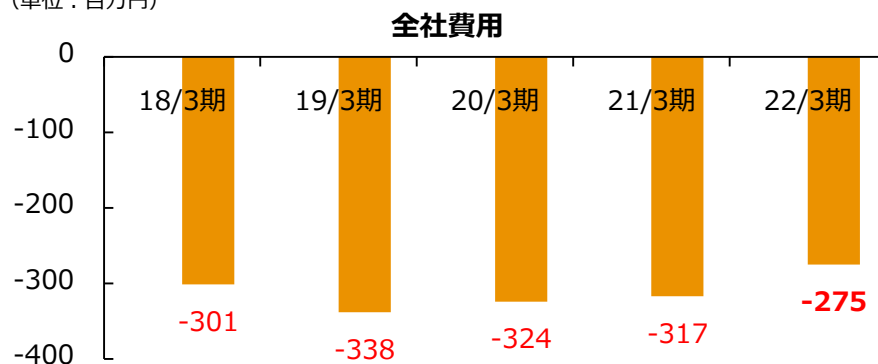
(単位：百万円)



(単位：百万円)

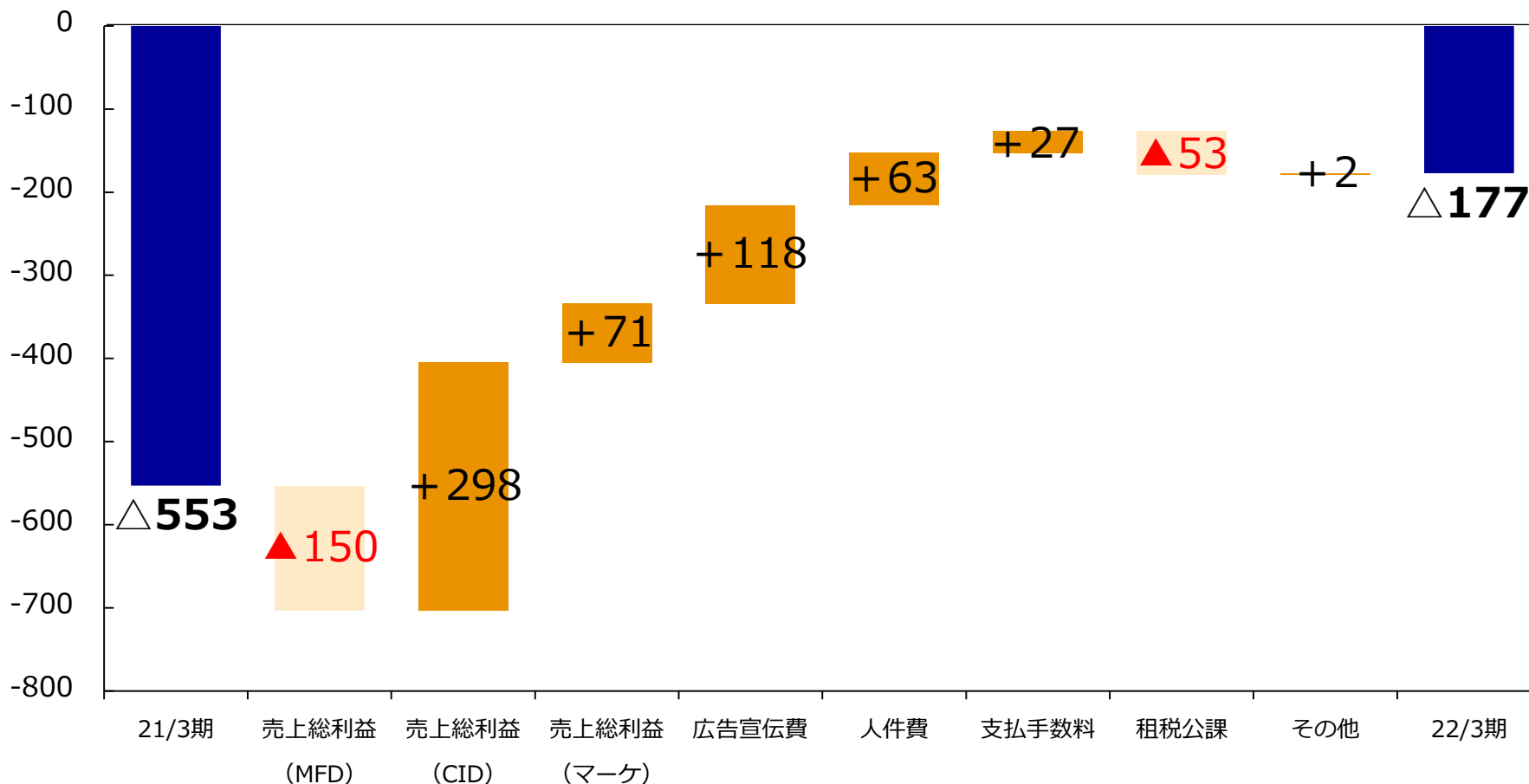


(単位：百万円)



MFD事業の営業利益の減少とCID事業の営業損失が大きく営業赤字に
営業損失はあるものの前年比で改善

(単位：百万円)



2023年3月期に販売できない可能性がある製品在庫があるため
製品評価損として187百万円を計上

C I D事業において、2023年3月期の販売計画から判断し、2022年3月期末在庫のうち一部について賞味期限の到来までに販売できない可能性が見込まれるため将来発生が見込まれる製品在庫を評価損として計上

2022年3月末 製品在庫 (百万円)	製品評価損 (将来発生が見込まれる損失)		
	製品 (百万円)	販売経費に 関する金額 (百万円)	合計金額 (百万円)
286	166	20	187

C I D事業の事業環境等を勘案し約18億円の減損損失(特別損失)を計上
2022年3月期の期末簿価は3,702百万円に減少

埼玉工場における固定資産(機械装置・ソフトウェア)の一部につき、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき回収可能性を検討した結果、2022年3月期の決算において減損損失1,777百万円を特別損失として計上することとしました。

	期首簿価 (百万円)	減価償却費 (百万円)	減損損失 (百万円)	期末簿価 (百万円)
有形固定資産および 無形固定資産	5,976	495	1,777	3,702

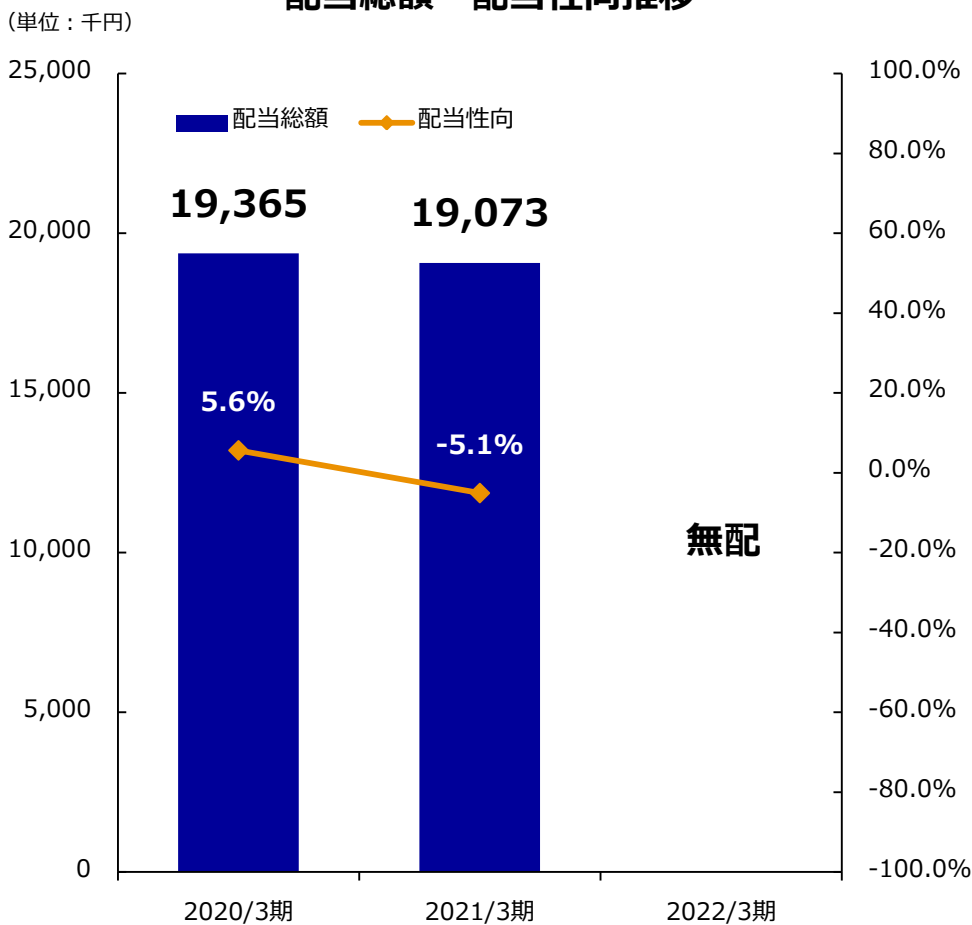
	2021年12月末 (%)	2022年3月末 (%)
自己資本比率	34.7	11.6

売上高および営業利益において業績予想と乖離が発生
当期純利益も減損損失を計上したため大きく乖離が生じる

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,874	100	92	68	10.83円
今回修正 (B)	3,123	△177	△158	△1,948	△306.54円
増減額 (B - A)	△750	△278	△251	△2,017	
増減率 (%)	△19.3	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	3,062	△553	△559	△374	△58.79円

減損損失の計上に伴う多額の当期純損失のため
2022年3月期の期末配当は無配に

配当総額・配当性向推移



株式時価総額推移



1. 決算概要
2. 2023年3月期業績予想
3. MFD事業
4. CID事業
5. マーケティング事業
6. 全社トピックス

売上高・営業利益ともに前期比で伸長
2023年3月期は年間配当金額3円を見込む

	22/3期2Q (百万円)	22/3期 (百万円)	23/3期2Q 予想 (百万円)	前年 同期比 (%)	23/3期 予想 (百万円)	前期比 (%)
売上高	1,598	3,123	1,527	95.5	3,200	102.4
営業利益又は 営業損失 (△)	18	△177	△35	—	105	—
経常利益又は 経常損失 (△)	4	△158	△59	—	114	—
純利益又は 純損失 (△)	1	△1,948	△40	—	79	—

	22/3期	23/3期 予想
年間配当金額	0円0銭	3円0銭

MFD事業は売上高・営業利益ともにプラス成長へ
マーケティング事業は連続して最高売上・営業利益を目指す

		22/3期2Q (百万円)	22/3期 (百万円)	23/3期2Q 予想 (百万円)	前年 同期比 (%)	23/3期 予想 (百万円)	前期比 (%)
MFD 事業	売上高	1,243	2,445	1,177	94.6	2,458	100.5
	営業利益	261	517	240	91.9	527	101.7
CID 事業	売上高	169	232	115	67.9	242	104.1
	営業利益	△202	△750	△296	—	△483	—
マーケ ティング 事業	売上高	185	445	234	126.8	500	112.3
	営業利益	129	331	171	132.9	368	110.0
全社費用		△170	△275	△151	—	△307	—

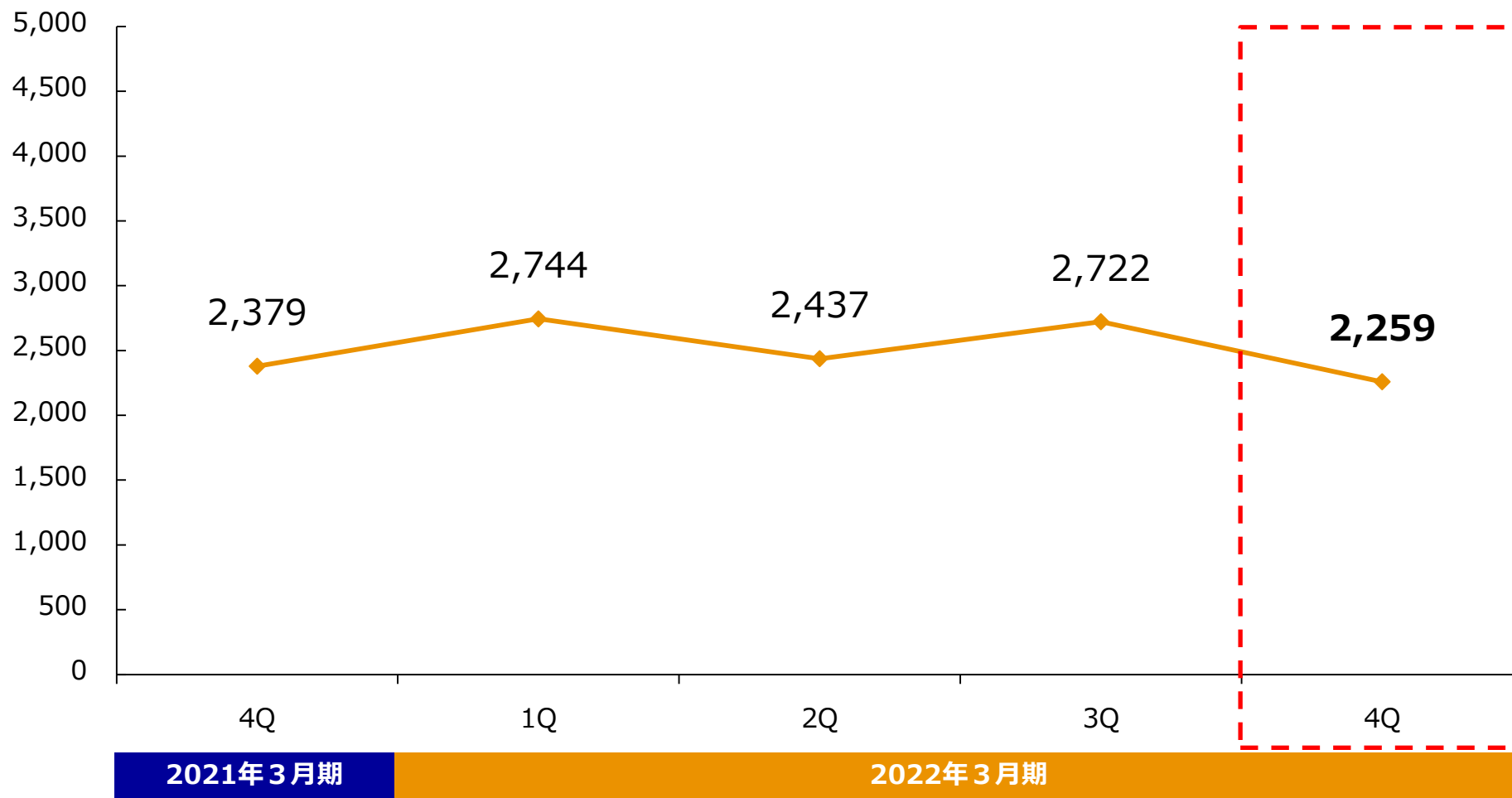
売上高および営業利益が大きく未達成に
2022年度は足場を固め着実に増収増益を実現させる

	23/3期 修正前予想 (百万円)	23/3期 修正後予想 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	10,000	3,200	△6,799	△67.9
営業利益又は 営業損失 (△)	2,000	105	△1,894	△94.7

1. 決算概要
2. 2023年3月期業績予想
3. **MFD事業**
4. CID事業
5. マーケティング事業
6. 全社トピックス

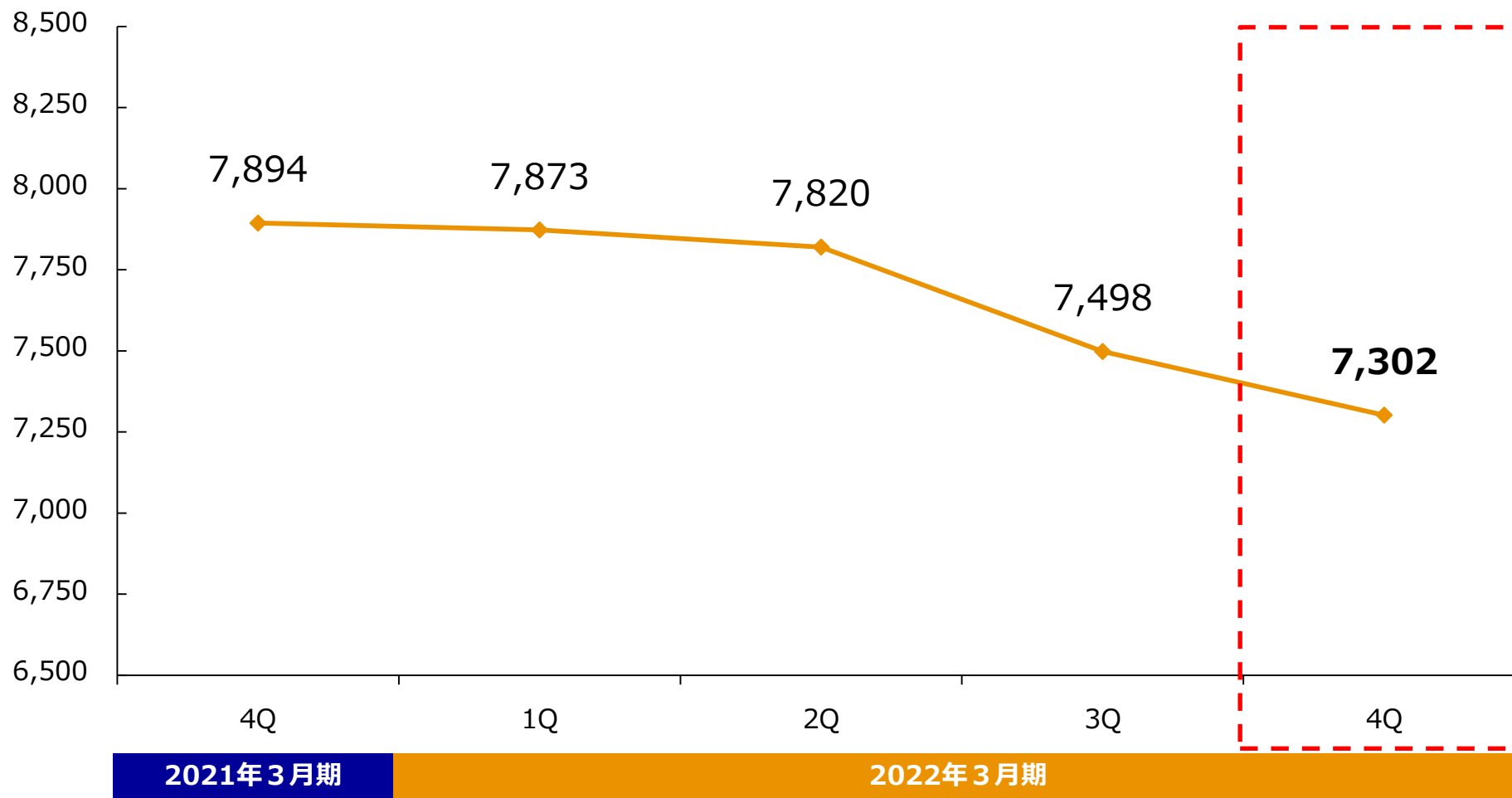
2022年4月より医療機関へ訪問を再開し新規顧客獲得を強化
 本社・大阪支社・新設した神奈川支社の3拠点で専任の営業担当を配置

(単位:人)



社員研修時間の減少により提案力の強化にマイナスの影響が生じる
一人当たりの新規顧客獲得数を成長期のレベルに戻すため研修を再開

(単位：人)



通常比で約13%糖質カットした「日の出 便利なお酢糖質ゼロ」を使用した「鶏のさっぱり煮セット」を3月1日（火）より発売

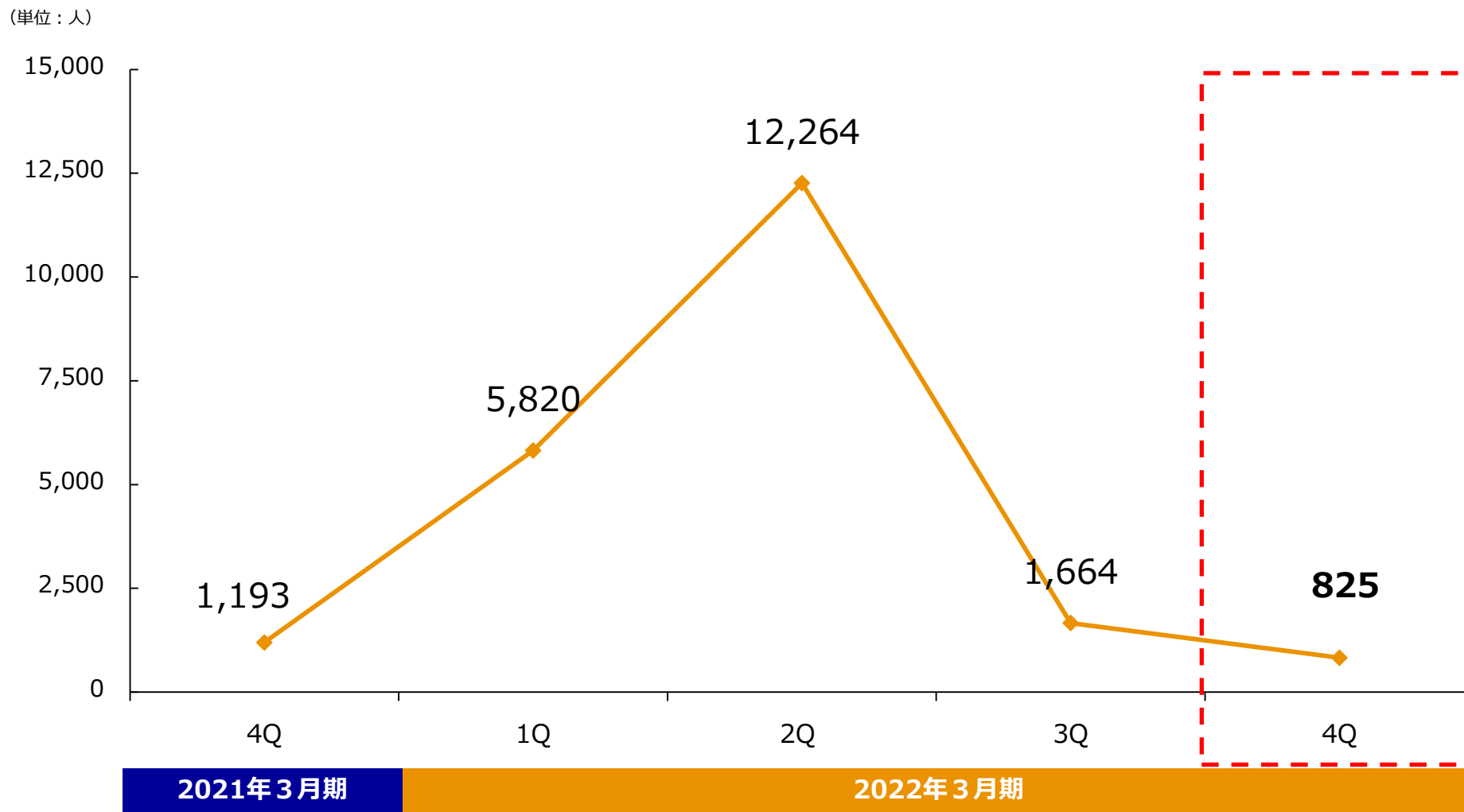


鶏のさっぱり煮セット

栄養成分：1食あたり（204g）	
エネルギー	215kcal
たんぱく質	12.9g
脂質	10.5g
炭水化物	17.6g
糖質	14.1g
食物繊維	3.5g
食塩相当量	1.9g

1. 決算概要
2. 2023年3月期業績予想
3. MFD事業
4. **CID事業**
5. マーケティング事業
6. 全社トピックス

新規顧客数は減少も商品・サービスの改善を続けることでリピート注文が増加
第1QはA I 旬すぐ会員の獲得に注力



生産者特定・特A米の玄米ご飯を 1/14 (金) に発売
糖質の吸収をおだやかにし糖尿病のリスク軽減に貢献



【旬すぐご飯】
温暖な土地みやまで遅しく育つ
香り弾ける元気つくし(玄米)

しっかりとした粒感があり、ツヤと粘りをお楽しみいただける玄米ご飯です。

玄米は、血糖値をゆるやかに上げる低GI商品（GI値 55）です。食物繊維・鉄分・ビタミンB1・ビタミンB6などを多く含み、不足しがちな栄養素を補うことができます。

栄養成分：1食あたり（200g）

エネルギー	330kcal
たんぱく質	5.6g
脂質	2.0g
炭水化物	71.2g
糖質	68.4g
食物繊維	2.8g
食塩相当量	0.0g

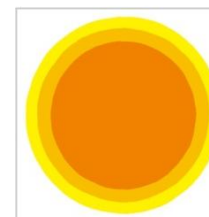
『旬をすぐに』と宮崎県がコラボ 高鍋町「ひまわりキャベツ」使用メニューを2/16（水）より発売



【旬すぐPREMIUM】
ひまわりの恵みで甘み最高潮
焼きロールキャベツで笑顔満開

「ひまわりキャベツ」は、宮崎の太陽の光をたっぷり浴びたひまわりを緑肥にして育ったキャベツです。

茹でたキャベツで1つずつ丁寧に手巻きしてロールキャベツを作り、一度蒸してからパルメザンチーズを振ってオーブンで焼き上げました。酸味と甘みのバランスが良いトマトソースと一緒に召し上がっていただくと、「ひまわりキャベツ」の甘みと旨みを最大限に感じていただけます。

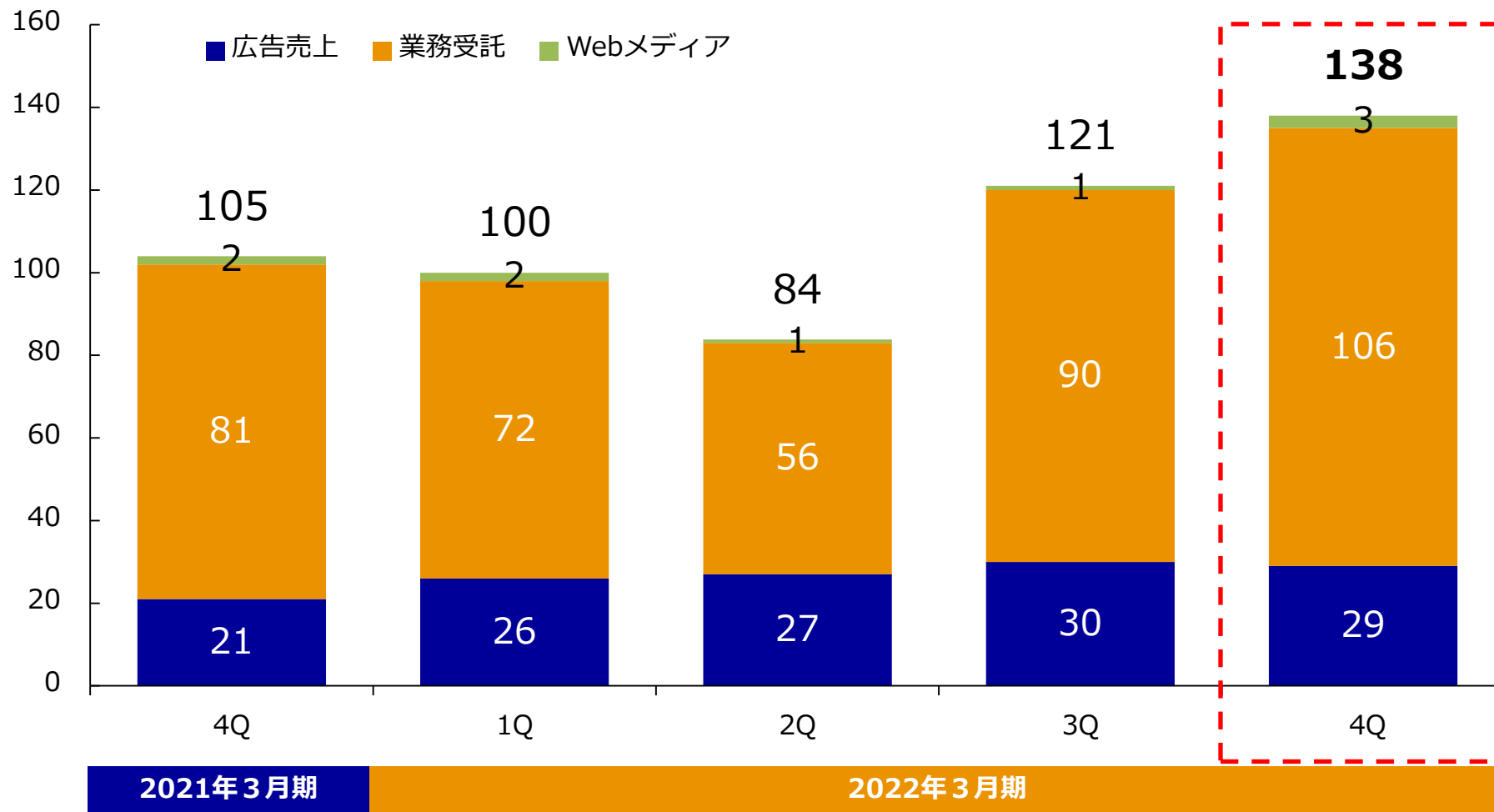


日本の
ひなた
宮崎県

1. 決算概要
2. 2023年3月期業績予想
3. MFD事業
4. CID事業
5. マーケティング事業
6. 全社トピックス

業務受託の獲得が順調に進み、クォーターおよび通期売上高で過去最高を達成
しかし予算対比では売上高・営業利益とも未達成に終わる

(単位：百万円)



1. 決算概要
2. 2023年3月期業績予想
3. MFD事業
4. CID事業
5. マーケティング事業
6. 全社トピックス

ESG・SDGsへの取り組みを発信するため コーポレートサイトに特設ページを開設

ESGとは

ESGとは、企業の持続的・長期的成長に重要とされている、Environment/環境・Society/社会・Governance/ガバナンスの頭文字を合わせた言葉です。当社では、ESGを重要な経営課題としてとらえ、積極的に取り組んでおります。

SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals ; 持続可能な開発目標) とは、2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



下記の7つの目標について、
当社の具体的な取り組み内容を
コーポレートサイトで発信



詳細は下記サイトをご覧ください。

https://www.fundely.co.jp/esg_sdgs/

女性役員・管理職の人数が10名（女性管理職比率81.8%）に達する
女性の活躍を支援し、SDGs達成に貢献



ジェンダーに関わらず、将来的に会社の中核をなす人材として活躍することを重視し社員の育成に努めています。

産休・育休から復帰しやすい社内体制づくりや、子育て支援を充実させるなど安心して長く勤務できる環境を整えるとともに、女性社員の活躍機会を提供することで組織力を強化し、当社の更なる発展に繋がります。

【女性役員・管理職の人数及び平均年齢】

	人数 (名)	平均年齢 (歳)
女性役員	1	40
女性管理職	9	34.7



本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

説明内容に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

お問い合わせ先：
株式会社ファンデリー
経営企画室
e-mail : ir_info@fundely.co.jp
TEL : 03-6741-5880

IRメール配信

<https://www.fundely.co.jp/ir/mail>

右のQRコードからもご登録できます

